



第137回  
企画展

# 近代皇室と栃木

## ～とちぎ御用邸ものがたり～

2023年 10月7日(土)～11月26日(日)



- 開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
- 休館日 毎週月曜日、10/10(火)、11/24(金)
- 観覧料 一般260(200)円  
高・大生120(100)円  
中学生以下は無料

※( )内は20名以上の団体料金、またはM割料金

- M割(ミュージアム割引)について  
M割参加館の入館券を持って、入館日から6か月以内にM割参加館に入館すると、料金割引を受けることができます。



Tochigi Prefectural Museum  
**栃木県立博物館**

〒320-0865 栃木県宇都宮市睦町2-2  
TEL:028-634-1311(代) FAX:028-634-1310

使用画像:左上 日光御用邸、右上 日光田母澤御用邸、右下 塩原御用邸 (いずれも田母澤御用邸、日光御用邸、塩原御用邸、埼玉鴨場、新浜鴨場(写真帳)/大正・昭和(宮内公文書館))、左下 那須御用邸(写真帳)/大正・昭和(宮内公文書館)





栃木県は明治期以降、皇室の避暑地として御用邸が設けられるなど、皇室と縁深い地域です。

栃木県には明治天皇が明治9年(1876)の巡幸で訪問されたのを最初として、たびたび行幸・行啓がありました。県内各地には日光・日光田母沢をはじめ、塩原・那須などの御用邸が設けられたほか、日光御猟場・養魚場などの皇室ゆかりの施設も置かれました。県内の御用邸には、大正天皇をはじめ皇室の方々がご静養に訪れ、栃木県の自然・文化に親しまれています。

宮内公文書館には、近代における皇室と栃木県との関係をうかがい知ることのできる文書・図面や写真等を所蔵しています。本展示では、宮内公文書館が所蔵する宮内省の公文書を中心にひも解き、関連する資料とあわせて近代皇室と栃木県との関係史を紹介します。



陸軍御軍服(明治天皇御料)〈後期展示〉  
明治神宮(東京都渋谷区)



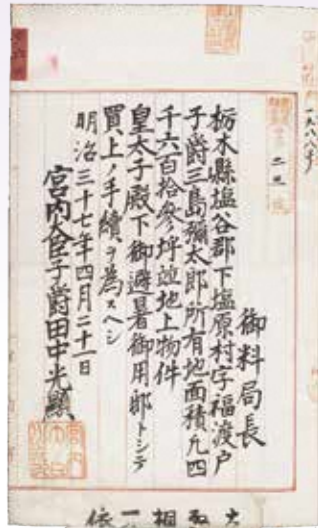
武蔵野図蒔絵文台(大正天皇御物)  
日光二荒山神社(栃木県日光市)



パナマ帽(昭和天皇御着用)  
昭和天皇記念館(東京都立川市)



杉戸絵「白梅二鶏」遠坂文雅筆  
日光田母沢御用邸記念公園(栃木県日光市)



塩原御用邸買上上決裁書類  
宮内公文書館(東京都千代田区)



明治天皇御写真  
宮内公文書館(東京都千代田区)



日光田母沢御用邸絵図  
宮内公文書館(東京都千代田区)



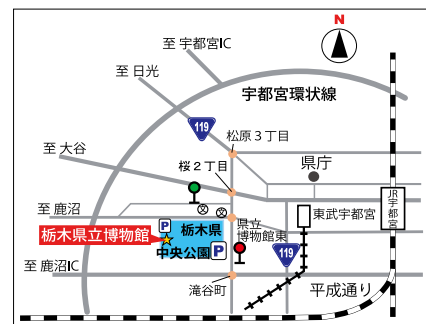
大正天皇御下賜杖 個人

### 関連行事

- 記念講演会① 要予約・定員150名(講堂) ※聴講には当日の観覧券が必要です。  
「明治天皇の栃木県行幸—今に遺される史蹟を訪ねて」  
講師：打越孝明氏(明治神宮国際神道文化研究所主任研究員)  
10月22日(日) 13:30～15:30
- 記念講演会② 要予約・定員150名(講堂) ※聴講には当日の観覧券が必要です。  
「大正天皇と三島中洲—その漢詩を通じた交流を中心に—」  
講師：町泉寿郎氏(二松学舎大学教授)  
11月12日(日) 13:30～15:30
- 宮内公文書館担当者による展示解説講座 要予約・定員150名(講堂)  
10月28日(土) 13:30～15:00  
講師：辻岡健志氏(宮内庁書陵部図書課宮内公文書館文書研究官)  
11月18日(土) 13:30～15:00  
講師：篠崎佑太氏(宮内庁書陵部図書課宮内公文書館公文書調査室研究員)
- 学芸員とおき講座 定員150名(講堂)  
10月15日(日) 13:30～15:00  
11月19日(日) 13:30～15:00
- 展示解説 当館展示室2  
10月8日(日)、11月5日(日) 各回 14:00～15:00  
※参加費は無料ですが、館内を観覧するので、別途観覧料が必要です。

### アクセス

- JR宇都宮駅または東武宇都宮駅から「桜通り経由鶴田駅行」または「桜通り経由西川田駅行」で「中央公園博物館前」下車(●)徒歩8分
  - 「長坂経由新鹿沼行」で「文星芸術大学附属中高」下車(●)徒歩8分
- ※開催期間中は駐車場の混雑が予想されますので、公共交通機関をご利用ください。



お問い合わせ・お申込み 当館教育広報課 (Tel 028-634-1312)